

袋井市大畑遺跡

(62県営かんばい天竜川下流地区)
(調査委託その1報告書)

1988・3

静岡県天竜川農業用水建設事務所
静岡県袋井市教育委員会

調 查 概 要

例 言

1. 本書は、昭和62年6月13日～昭和63年3月20日の期間に、袋井市岡崎字大畑地内で実施した「62県営かんばい天竜川下流地区調査委託その1」の大畑（おおばたけ）遺跡発掘調査報告書である。
2. 本調査は、大畑遺跡第Ⅵ次調査と便宜的に呼称することとした。大畑遺跡で行われた発掘調査は次の通りである。

調 査	年 度	発 掘 担 当 者	出 土 遺 構 ・ 遺 物
第Ⅰ次調査	昭和26年度	後藤守一（明治大学）ほか	住居跡・土器・石器・貝類
第Ⅱ次調査	昭和52年度	市原壽文（静岡大学）ほか	住居跡・土器・石器・人骨
第Ⅲ次調査	昭和53年度	市原壽文（静岡大学）ほか	住居跡・土器・石器
第Ⅳ次調査	昭和55年度	市原壽文（静岡大学）ほか	住居跡・貝塚・埋葬人骨
第Ⅴ次調査	昭和56年度	市原壽文（静岡大学）ほか	住居跡・貝塚・土器・石器
第Ⅵ次調査	昭和62年度	永井義博（袋井市教委）	住居跡・炉跡・土器・石器

3. 今回の調査は、天竜川農業用水建設事務所長 小笠原勝彦を委託者とし、袋井市長 湖東二郎を受託者とし、袋井市教育委員会を調査主体として実施した。
4. 発掘調査は、永井義博（袋井市教育委員会）発掘担当者として、静岡県教育委員会文化課の指導を得て実施した。現地調査では、市原壽文氏（静岡大学）の指導を受けることができた。
5. 本報告書の執筆・編集は永井義博が担当した。
6. 本報告書に使用した挿図のトレースは早川保子が作図し、出土遺物の整理には山下悦子、寺田矩江の協力を得た。
7. 今回の大畑遺跡発掘調査は、天竜川農業用水建設事務所の全面的な協力のもと実施された。ここに記して感謝したい。
8. 調査資料は、すべて袋井市教育委員会が保管している。

目 次

第1章 大畑遺跡とは.....	1
第2章 発掘調査に至る経過.....	1
第3章 調査経過.....	2
第4章 調査体制.....	4
第5章 調査の方法.....	4
第6章 地理的環境・歴史的環境.....	5
第7章 遺跡の概要	
第1節 大畑遺跡の標準層位.....	6
第2節 検出された遺構.....	6
第3節 道路部分のトレンチ.....	8
第4節 遺構のまとめ.....	9

挿 図 目 次

- 第1図 大畑遺跡位置図 (1/50,000)
- 第2図 大畑遺跡の位置と範囲 (1/2,000)
- 第3図 大畑遺跡周辺の地形・地質
- 第4図 笠原台地の模式断面図
- 第5図 大畑遺跡周辺の湧水・湛水地
- 第6図 東海の縄文貝塚分布図
- 第7図 大畑遺跡昭和62年度発掘調査全体図
- 第8図 第1号住居跡実測図
- 第9図 環状柱穴列実測図
- 第10図 第2号住居跡実測図
- 第11図 焼土遺構実測図
- 第12図 第3号住居跡実測図
- 第13図 第4・5号住居跡実測図
- 第14図 第1・第2柱穴列実測図
- 第15図 道路部分トレンチ実測図

図 版 目 次

- 図版 1 (A) 遠州海上空より大畑遺跡を望む
(B) 浅羽町梅山上空より大畑遺跡を望む
- 図版 2 (A) 大畑遺跡(東より)
(B) 昭和62年度調査区全景
- 図版 3 (A) 発掘調査前の作業風景
(B) 住居跡発掘作業
(C) 柱穴群検出状況
- 図版 4 (A) 表土除去作業中
(B) 乾燥防止のためシートで遺跡を覆う
(C) 遺構精査中
- 図版 5 (A) 調査区南西発掘風景
(B) 炉跡付近発掘風景
(C) 写真撮影用散水風景
- 図版 6 (A) 遺跡完掘状況(北より)
(B) 遺跡完掘状況(東より)
- 図版 7 (A) 第3号住居跡完掘状況(南より)
(B) 第4・第5号住居跡完掘状況(東より)
- 図版 8 (A) 第1・第2号住居跡完掘状況(東より)
(B) 焼土遺構(炉跡)完掘状況(北東より)
- 図版 9 (A) 土壌完掘状況(西より)
(B) 第1・第2柱穴列完掘状況(西より)
- 図版10 集落跡北側を巡る柱穴列より(東より)
- 図版11 (A) 導水管埋設部分発掘前(第10トレンチ)
(B) 導水管埋設部分発掘中(第9・10トレンチ)
- 図版12 (A) 農道部分表土掘削状況(第15トレンチ)
(B) 農道部分遺構精査中(第11トレンチ)
(C) 農道部分発掘状況(第1・2トレンチ)
- 図版13 (A) 第3トレンチ完掘状況
(B) 集落跡北西の山裾に残る池跡(第12トレンチ)
- 図版14 (A) 第3号住居跡発掘作業風景
(B) 土製耳飾出土状況
(C) 注口土器出土状況
(D) 市原壽文静岡大学教授の現地指導

第1章 大畑遺跡とは

大畑遺跡は縄文時代中期～晩期の集落跡・貝塚として広く知られており発掘調査や畑の表面で採集された土器・石器・人骨・貝類は膨大な量である。

大畑遺跡の名がはじめて文献に登場するのは、江戸時代も後半の享和3（1803）年に著された「遠江古跡図絵」下巻の「遠州奇石数品」の節で、[一、星麓 横須賀の近在岡崎村大畑より出る、是黒瑪瑙也。]という一項目が設けられているのが最初である。

これにひきつづき昭和になると、「静岡県史」第1巻の「石器時代の遺跡—遠江国—小笠郡に於ける遺物散布地」の中に「(一) 笠原村岡崎及び山崎」の項があり、大畑遺跡に関して、「大字岡崎字大畑より土器 薄手 沈文石鉢・石斧残欠・石棒同上・石鏃及び黒曜石片を出し」との記述がある。

静岡県史の記述に触発されて地元の有志が、大畑遺跡に表面採集に訪れた結果をまとめたのが「遠江郷土研究会誌」第二号に発表されている。この中では石斧・石棒・石鏃・叩き石そして多数の石鏃を採集したとの報告がある。

大畑遺跡の本格的発掘調査は、明治大学により昭和26年に実施され、岡本勇氏により日本考古学年報4「静岡県小笠郡大畑遺跡」で詳しく報告されている。ついで、昭和53年から、静岡大学により調査が実施され現在に至っている。

第2章 発掘調査に至る経過

昭和60年度の長者平遺跡（袋井市豊沢地内）発掘調査の際、遺跡内の農道を畑地灌漑用ファームボンド（ため池）を結ぶ導水管を埋設する工事（はたかん事業）が確認され袋井市教育委員会によって該当部分の発掘調査が実施された。この際、天竜川農業用水建設事務所の担当者は袋井市遺跡地図・地名表によって袋井市岡崎地内の同はたかん事業によるファームボンド（ため池）建設予定地が静岡県指定史跡の候補にのぼったこともある大畑遺跡の中心に位置していることに気付いた。天竜川農業用水建設事務所は急きょ地元の組合及び土地所有者と話し合いなんとか大畑遺跡の範囲外にファームボンド（ため池）建設予定地を移そうとした。また、静岡県教育委員会、袋井市教育委員会と再三にわたって善後策を協議し貴重な文化財を保存する方向を模索した。しかし、地元との土地買収交渉もすでに契約寸前になっており、周辺での適当な代替地も見つからなかった。またファームボンドの性格上、灌漑を受ける対象地内での位置と絶対標高はおのずから限定されており、予定地の変更は至難の技であった。このような状況の中、最終的に静岡県教育委員会文化課は発掘調査による記録後に破壊されるもやむなしとの結論を出し、袋井市教育委員会もその内容に添うこととなった。

大畑遺跡の発掘調査はこれで完了したわけではない。ファームボンドが昭和63年度に完成するのに伴って、周辺の茶園ではいっせいに改植がはじまることが予想される。

第3章 調査経過

- 6月13日 契約開始日
- 6月15日～24日 提出書類の作成・整理。周辺の地主への通知。重機、プレハブ等の業者への手配。作業員の募集。器材の準備。
- 6月25日 現場の仮設プレハブ事務所の建設。仮設トイレの設置。
- 6月26日 重機により表土、雑草、茶の木の除去作業。
- 6月27日～30日 事前の写真撮影。測量、レベルの移動作業。

- 7月1日 発掘調査開始。草刈り。調査区周辺の整備。縄文土器の表採あり。
- 7月2日 調査区設定。表土から除去をはじめる。土器片、石器が出土。
- 7月3日 雨天中止。室内で図面の整理。
- 7月4日 西区より表土の除去。
- 7月6日 表土除去。縄文土器は大型の破片が出土。茶園の部分は改植されている。強い日差しの下では土の乾燥がはげしく、全面に農業用のビニールシートで覆う。
- 7月7日 調査区中央付近よりの遺物の出土が多い。昨夜の雨で土は柔らかいが、肥料としてつんである鶏糞の臭いが西風によって流れてくる。くさい！鼻が曲りそうな劣悪な環境のもとでの調査だ。
- 7月8日 調査の進行の早い地区では、すでに第Ⅱ層が見えている。遺物は後期の注口土器や晩期の耳栓がある。住居跡または関連す遺跡が期待される。
- 7月9日 昨日、遺物の出土量の多い地区を中心に精査する。全体に西側に遺物の出土が偏っている。注口土器片出土。昨日の土器片と接合する。
- 7月10日 遺構確認の後、一部ピットを掘りはじめる。
- 7月14日 遺構の発掘。
- 7月15日 セクションの確認。Ⅲ層の再び掘り下げ。縄文中期の把手や晩期の土器片も出土。2ヶ所の土器集中地点がある。
- 7月25日 第Ⅲ層へはいる。遺物の出土も順調。
- 7月31日 遺構確認。ピット・溝跡を確認。大規模な焼土遺構を検出する。

- 8月1日 焼土遺構は住居跡の炉跡の可能性があるので、焼土の周辺のピット及び壁溝の検出に全力をあげる。焼土の周辺からは多数の耳栓が出土し、Uの字形の焼土の中央付近から高杯型の縄文晩期ほぼ完形土器が1点出土している。
- 8月3日 ピット・溝跡等の遺構掘り。調査区西側セクションの突進。
- 8月6日 東区の南側の表土を一部掘り下げる。業者と土の搬出についての打合せをする。ユンボと4tダンプ3台で2日間を予定している。
- 8月7日～8日 重機とダンプにより排土の搬出。

- ◎8月17日 西区遺構実測とレベル。東区表土掘下げ。
- ◎8月21日 西区遺構実測。東区表土掘下げ。市原寿文先生（静岡大学）の現地指導。
- ◎8月22日 出土遺物の整理。
- ◎8月24日 西区遺構レベル。東区表土掘り下げ。
- ◎8月25日 東区Ⅱ層掘り下げ。
- ◎8月28日 東区北側の第Ⅱ層掘下げ。2回目の土砂の搬出。ユンボと4tダンプ3台で作業を行う。
- ◎8月31日 東区南側の表土の除去作業にはいる。

- ◎9月1日 表土除去作業。
- ◎9月7日 （財）静岡埋蔵文化財調査研究所の職員の見学。
- ◎9月14日 東区北側、南側ともビット確認。
- ◎9月17日 天竜川農業用水建設事務所 今駒氏、大橋氏立ち会いのもと道路部分の導水管埋設地点の測量ポイントを確認する。道路工事用の看板の納品。
- ◎9月26日 吉田町へ空中写真撮影コースの打合せを行う。

- ◎10月3日 各区ともほとんど掘り上がりの状態となる。
- ◎10月5日 空中写真撮影のため、遺構の清掃を行う。
- ◎10月7日 ヘリコプターによる空中写真撮影を実施する。
- ◎10月8日 ユンボの入れない畑の中の導水管埋設部分のトレンチ調査を開始する。農道の表面は砂利や石が多く、スコップによる発掘では難渋をきわめた。
- ◎10月17日 調査員専門研修のため遺跡調査を一時中断する。
- ◎10月20日 道路発掘用通行止め看板の撤去。

- ◎11月2日 遺構実測のため部分的に作業を再開する。実測用の水系をはる。
- ◎11月4日 南側より遺構実測。埋まりかけたビットの上を出しながらの実測である。
- ◎11月11日 導水管埋設部分のトレンチ調査を再開する。
- ◎11月18日 市原寿文先生（静岡大学）の現地指導。
- ◎11月30日 導水管埋設部分のトレンチ調査を終了。大畑遺跡外業をすべて完了する。

- ◎12月1日 出土品整理の開始。出土遺物実測・写真撮影。報告書の原稿執筆・編集。

- ◎3月19日 大畑遺跡発掘調査報告書完成
- ◎3月20日 委託契約完了日

第4章 調査体制

- 調査計画 静岡県天竜川農業用水建設事務所
- 調査指導 静岡県教育委員会 文化課
- 調査主体 袋井市教育委員会 教 育 長 鈴 木 勲 一
社会教育課長 井 口 育 夫
文化振興係長 小 粥 保 夫
主任学芸員 吉 岡 伸 夫
主 事 建 部 千 代 子
学 芸 員 永 井 義 博 (調査担当者)
- 調査参加者 大橋庄一 佐藤好孝 三浦久雄 高橋秋義 安間しげ子 樽松光子 寺田
矩江 寺田松枝 高橋さかえ 高橋巳代子 永田のぶ枝 仲根世始子 名倉保子 早川里
美 早川保子 早川明子

第5章 調査方法

大畑遺跡は昭和55年度に、遺跡全体を覆うグリットが設定されている。しかし、当時のグリット・ポイント、ベンチマークをポイント設定図より探したが耕作や用水路の新設など7年の歳月の流れは木製の測量杭を埋没させ、または朽ち果てさせていた。

そこで、まず調査区（ファームpond建設用地）内の表土をグリットを設定しない状態で除去したところ2本の測量杭を発見することができた。そこでその杭を基準として10m×10mの正方形のグリットを1単位とする基本グリットを復元することができた。グリット名は、北から南にA、B、C、Dと名付け、西から東へ7、8、9と名付けた。そして、アルファベットに数字の交差したところをそのグリット名とした。各グリットは10m×10mと面積が広いので遺物の取り上げや、実測図の作成に不都合が生じるため中を4分割しそれぞれa、b、c、dの名称をつけた。これによって、例えば今回検出されたが跡はB7—aグリット検出ということになる。出土遺物の取り上げ・実測図の整理・現像されたフィルムの分類などすべてこの名称に統一して行った。

発掘調査は、調査区内を東西に2分割して、その西区を7月1日から8月24日まで、東区を8月6日から10月3日の期間調査した。セクションベルトは、調査区ないが茶園でかなり改植がすすみ、白畑部分もゴミ穴の攪乱がはいつているため今回の調査では設定しないで発掘区の外壁でプライマリーな部分を実測した。西区の排土は作業員が1輪車で東区に運んで積上げ、それを重機とダンプで搬出した。東区も南側3分の1に発掘の排土を作業員によって積上げ、同じく重機とダンプで搬出した。最後に残った土は作業員が1輪車によって調査区外に搬出し完掘した。写真撮影は、調査区遠景・全景写真をヘリコプターで上空より撮影し、遺構はローリングタワー3段または2段の上から撮影した。

第6章 地理的・歴史的環境

大畑遺跡を太田川河口上空より鳥瞰すると、小笠山から南西にのびた山裾の先端、台地上の小さな窪地に位置している。この窪地はなだらかな南斜面で西側に微高地をもち、この地方独特の西からの強い季節風、いわゆる遠江のからっ風を遮り穏やかな気候をつくりだしている。かつて、汀線が遺跡のすぐ近くまではいりこんでいる時は、古磐田海と呼ばれた内湾に突き出した岬の根元の漁業集落的存在を予想させる立地条件である。

大畑遺跡の立地する小笠山丘陵は、小笠神社付近の海拔264mを最高地点とし、尾根と谷が平行して走り、谷の支谷が尾根の中に入り込んで樹枝状の模様をなしている。地質的には、中期更新統の礫・砂・泥（粘土）層からなり、主体をなす部分は河成礫層の間に何層もの淡水ないし内湾成泥層を挟む小笠層群とよばれている。岩種はよく円磨された10cm大の砂岩が圧倒的に多く太田川、天竜川の岩石とは異なり、はるか東方の大井川にその形成要因を求めなければならない。縄文時代の遺跡の立地条件としては大畑遺跡はかなり恵まれた場所に位置する。いままでの研究を総合すると、次の事が考えられる。（1）遺跡の立地が、平坦な段丘面に位置している。さらに、南向きの緩やかな斜面で太陽の恵みをいっぱいうけることができる。（2）遺跡の背後にある支尾根は、冬期の強い季節風を和らげる働きがある。（3）台地上のため、高燥である。また、礫を多く含む地面のため水はけはよい。さらに遺跡の周囲の小さな谷は、大雨が降った時でも、すばやく排水をする能力を持っている。（4）遺跡の裏である小笠丘陵に狩りにいくのにも、井戸谷の侵食谷に沿って入江に漁にいくのにも至近距離にある。（5）集落の付近に湧水地がたくさんある。加藤芳朗静岡大学教授の調査では、冬の湛水期である1月上旬の調査において16ヶ所の湛水地・湧水地を確認している。これにくわえて、今回の調査では集落から日と鼻の先で大きな池状の遺構が検出され、いままで地表からの観察では発見できなかった地下の水脈が初めて発掘調査で検出された意義は大きい。

さて、大畑遺跡の周囲には、縄文時代の遺跡はほとんど発見されておらず、袋井市内では約3%。北西方向にある長者平遺跡が著名である。ここ長者平遺跡は、昭和53年から数度にわたって発掘調査され縄文時代中期の遺物・遺構を出土する遺跡である。大畑遺跡より北東へ約3%。はといった山本遺跡でも、石鏃、石匙、石錘等が表面採集されている。しかし、まだこの遺跡は、発掘調査がおこなわれておらずその性格は不明のままである。その他、袋井市内の縄文時代の遺跡としては、袋井市国本の陣屋北遺跡（前期）、久野山遺跡（中期）、三川の山田原遺跡、大谷原遺跡、豆塚Ⅱ遺跡などがある。このような状況に加えて、大畑遺跡を考える場合に重要になってくるのが古磐田海をはさんで対峙する磐田市西貝塚、石原貝塚、見性寺貝塚などの遺跡群、佐鳴湖のほとりに営まれた浜松市娘塚遺跡、そして、愛知県の三河湾沿岸の縄文貝塚群との比較であろう。

第7章 遺跡の概要

第1節 大畑遺跡の土層

いままでの大畑遺跡の基本的な土層堆積は、発掘成果より次のようになっている。

- 第Ⅰ層 暗褐色土層（表土＝耕作土）
- 第Ⅱ層 黒褐色土層
- 第Ⅲa層 暗褐色土層
- 第Ⅲb層 暗黄褐色土層（洪積世漸移層）
- 第Ⅳ層 地 山（遺跡基盤層）

このうち、第Ⅱ層・第Ⅲa層・第Ⅲb層が遺物包含層である。第Ⅲa層からは、縄文中期後半から中世・近世に及ぶ遺物が出土し、中世に属する遺構の覆土はこの層を主体としている。第Ⅲb層出土の縄文土器は、縄文時代後期・晩期であり中期後半の遺物は非常に少ない。

今回の調査は、南北40m、東西27m、約1,200㎡のファームボンド建設予定地区と総延長383.5mの導水管埋設部分を発掘した。層位については過去の調査の名称を踏襲したがである。（第Ⅰ層）表土層である耕作土層はすべて第Ⅰ層とした。色調は暗褐色で耕作による攪乱のためしまりがなく土層中に樹枝などが多く含まれている。茶園と白畑では若干異なるが、本文内では同一耕作土層として扱っている。（第Ⅱ層）過去の調査では、第Ⅰ層＝表土層上半部、第Ⅱ層＝表土層下半部として扱っているが、今回の調査では第Ⅱ層を一つの層に一括した。（第Ⅲ層）遺物包含層で色調は暗褐色を呈している。いままでの調査では、第Ⅲ層はⅢa層（遺物包含層上部）、Ⅲb層（遺物包含層下部）の2層に分層して調査した。Ⅲa層は碑・貝・獣骨等の自然遺物の出土が出土しているが今回の調査では第Ⅲ層は薄く上下2層に区別できなかった。（第Ⅳ層）暗黄褐色の礫混じりの粘土層である。遺跡基盤に相当する洪積層の表面に堆積した漸移層では遺物層である。以上のように、第Ⅰ層から第Ⅲ層までは、色調が類似しており判別はかなり難しい。さらに、これに落ち込みや遺構が複雑に重複するのが大畑遺跡の状況である。ファームボンド建設予定地区は、用地内が茶園部分は、改植はいつて縞状に攪乱をうけており、白畑部分では深い掘削跡やゴミ穴が残し、各所でわずかに残った包含層がズタズタになっている。

第2節 検出された遺構

今回の発掘調査では、住居跡5、土塙2、柱穴列2、溝跡2、その他の遺構若干数が検出されている。しかし、いままでの調査と比較して遺構の検出量は少ない。これは、第2図で示したとおり調査区が集落推定範囲の北東部分にあたり、祭祀のための広場のような場所かもしれない。また、調査区北端で東西方向の柱穴列が検出されている。

〔第1号住居跡〕

遺跡基盤層まで掘り下げた段階ではじめて検出された遺構である。住居跡と名付けたが、壁の立ち上がりや壁溝、貯蔵穴、そして炉跡などは検出されていない。柱穴と思われる Pit が5つ直径5.0mの規模で円形に検出されている。Pit の直径40cm～50cm、深さ40cm～50cmと柱穴とするには十分な規模を持つ。第1号住居跡は、第2号住居跡と重複関係にあるが第1号住居跡の Pit が第2号住居跡の炉跡を切っているため第1号住居跡のほうが新しいと思われる。(第8図参照)

〔環状柱穴列跡〕

調査区のほぼ中央 A 7—d 区より検出された遺構である。長軸5.0mの楕円形の柱穴列で総数17からなっている。柱穴跡は、直径18cm～50cm、深さ12cm～23cmの大きさである。柱穴の配列によっては住居跡と思われるが、壁の立ち上がり、壁溝、炉跡などは検出されていない。(第9図参照)

〔第2号住居跡〕

この住居跡は、当初はほぼ中央にある大規模な焼土跡の検出のみに注意が払われて、住居跡として確認されるにはしばらく時間を必要とした。さらに、第1号住居跡と重複しているため、柱穴の数だけそろって組み合わせが認知されなかった。壁溝・炊跡等は検出されておらず、柱穴・炉跡のみの検出である。柱穴跡は一部、西側の調査区外におよんでいるが直径5.5mの規模の8本柱の住居であろう。炉跡の焼土は1.5×1.2mの範囲で馬蹄形に広がっており詳細は次の焼土遺構の項に譲る。柱穴跡は直径18cm～35cm、深さ13cm～20cmの規模で層位が下がってから確認したためか、どの柱穴跡も浅く上部が削平されてしまっている。(第10図参照)

〔焼土遺構〕

第2号住居跡の炉跡と思われる焼土遺構は、その規模・形態・出土遺物の状況から当初は、単独の遺構と考えていた。しかし、周囲の遺構精査が進む中で、住居跡の炉跡の可能性がおおきくなってきたのである。この遺構は、まず平坦な地面に直径50cmの Pit 掘り、掘った土の中で小礫の多いところをふたたび Pit の底に敷石をおいたものと考えられる。炉跡中央のややレベルの高いところから縄文時代晩期と考えられる台付鉢と、焼土の周開から数点の土製耳飾が出土している。(第11図参照)

〔第3号住居跡〕

調査区東側の農道に4分の1かかっており、発掘調査では残りの4分の3が検出されている。発掘された住居跡の規模は、南北方向5.2m、東西方向は確認された部分で5.2mである。住居跡の立ち上がりは、東側の壁のセクションでもわずか数十センチメートル残るのみであり、平面精査の段階で壁を確認することはたいへんに難しい。調査区東側の農道部分に導水管埋設部分のトレンチを掘った時には、住居跡に関連する遺構は検出されなかった。このため、農道の下になってすぐのところで完結しているものと考えられる。柱穴跡は床面に65検出されているが、このなかで規模・形態が十分な条件を持っているのが第

12図のスクリーントーンのはいった柱穴跡である。壁溝は北側、南側でそれぞれ他の遺構と切り会って失われているが、残存部の壁溝跡はU字形またはV字形の断面をもち、幅10cm～25cm、深さ12cm～20cmを計る。壁溝跡の底部には、約1.0m間隔で直径15cm～20cm、深さ15cm～20cmの小柱穴跡が検出され建物構造を知るうえで重要な手掛かりとなる。この住居跡の中央付近は遺構がなく空白の部分がある。これは、近代の溜めの跡であることが、これにより縄文時代の遺構が失われている可能性もある。そう考えると炉跡はこの部分にあったかもしれないが、焼上や炭化物の検出がないことから屋内に炉を持たない可能性もある。(第12図参照)

〔第4・第5号住居跡〕

調査区の南側で2軒重複して検出された。この部分の地形は西から東に、北から南にゆるやかにくだる斜面で、そのため住居あとの壁はそれぞれ北と西では確認できる。両方の住居跡とも炉跡、壁溝を持たない遺構である。規模は、第4号住居跡は長軸6.5m、短軸5.8m、第5号住居跡は長軸5.2m、短軸5.0mではほぼ円形を呈する。また、この南側では、昭和55年度に発掘された住居跡が集落としての構成を示している。(第13図参照)

〔第1・第2柱穴跡列〕

調査区北端のいちばん幅の狭い部分から検出された遺構である。柱穴列は東側は堆肥置場のしたへつづき、西は農道の下に入っていく。調査区北側の農道で行った、導水管埋設部分のトレンチでは、いくつかの柱穴跡が検出されているが、この柱穴跡列の延長と確認できる柱穴跡はなかった。第1柱穴跡は、直径16cm～55cm、深さ10cm～35cmの規模で主軸方向はN-85°-Eである。第2柱穴跡列の柱穴跡は直径30cm～60cm、深さ10cm～25cmの規模で主軸方向はN-75°-Wである。第1柱穴跡列の柱穴跡は、地形のコンタに沿って並んでおり、第2柱穴列の柱穴跡は、第1柱穴跡列の柱穴跡に約20度の角度をもって接している。そのまま、農道下で交差しているのかは不明である。第1柱穴跡列と第2柱穴跡列の関係についてはほとんど解っていない。用途、及び時間的な問題についても今後の調査資料の増加をまたなければならない。一応、調査中の所見としては、大畑遺跡の北側(山側)を巡る防御の櫓のようなものではないかと考えている。(第14図参照)

第3節 道路部分のトレンチ

ファームボンドへは導水管がつながっているが、その埋設は大畑遺跡内の農道直下におこなわれることになっているため、第15図のとおり総延長383.5mにわたってトレンチを組んだ。農道上には、導水管埋設用の測量ポイントが設定されていたため、その部分を選んで発掘することとした。結果として、20本のトレンチは遺跡内の農道のほぼ中央に細分されて設定することとなった。

〔池状遺構〕

今回のトレンチ調査での最大の成果は、第13トレンチ西側と第14トレンチ北側で検出された大きな池状の遺構である。これは、いままで行われた地質的調査によっても推定され

ていない場所で、なんといっても集落内に湧水があることが重要となってくる。大畑遺跡成立および繁栄の命綱といっても過言でない水利である。これは、北側の小笠山の支丘陵の雨水を集めて流れる地下水の集中する地点であろう。礫層の上がつかぬかで、砂層の表れる断面がみられるのであろう。

〔柱穴・溝跡等〕

遺跡の中心部にあたる第1トレンチ・第11トレンチ・第12トレンチでは多数の遺構が検出されている。狭いトレンチ内であるので住居跡・土壇などの確認はできなかったが、遺物の出土している遺構も多くその可能性ものこしている。また、東側の第9トレンチ・第10トレンチや、南側の第19トレンチ・第20トレンチでは遺構・遺物の数が激減して大畑遺跡の範囲をはっきり示している。

第4節 遺構のまとめ

今回の調査では、住居跡・土壇・溝跡・柱穴跡の遺構が検出されたが、数としては少なく、調査地区が大畑遺跡の全域のなかではやや北東のよっているため、集落の中心をはずれているためであろう。大畑遺跡の生活の中心は、遺跡範囲のなかでは海に近いやや南側で、昭和56年度の発掘調査区の小貝塚や獣骨の多量に検出したあたりであろうか。今回の調査区では包含層も薄く上部には広い範囲で攪乱が入っていたり、改植済の茶園であったりして遺構の検出状況はかんばしくなかった。さらに、小貝塚や獣骨の自然遺物や人骨もほとんど確認されておらず、わずかに数十メートル離れているだけで状況が一変している。

調査区の北側から検出された東西方向にのびる柱穴列は、集落の北限を示す柵列状の遺構の可能性を示唆している。これは、人の侵入を防ぐというよりは、イノシシなどの獣の侵入を防ぐ程度のものかもしれない。この柱穴列の北側では柱穴跡が希薄になって第9トレンチや第10トレンチでは遺構の検出がわずかになっている。

住居跡は調査区内でも南側に集中する傾向をみせ、これを遺跡の全体図にあてはめると集落の配置、小貝塚の分布、埋葬人骨の位置など縄文時代中期から晩期にかけての笠原台地の上で展開された人々のくらしを把握することも可能かともおもわれる。

(袋井市教育委員会 永井義博)

参考文献・引用文献

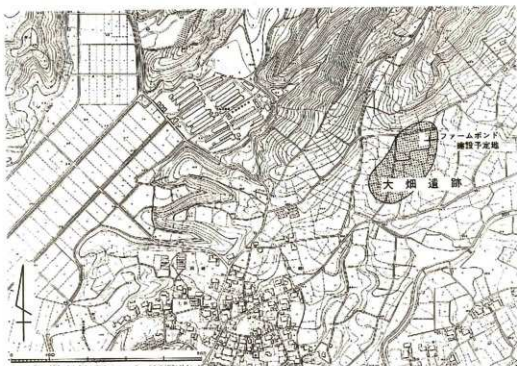
- 袋井市教育委員会『袋井市大畑遺跡 —1977年度の発掘調査—』1978
袋井市教育委員会『袋井市大畑遺跡 —1978年度の発掘調査—』1979
袋井市教育委員会『袋井市大畑遺跡 —1951・1977・1978・1980年度の発掘調査—』1981
袋井市教育委員会『袋井市大畑遺跡 —1981年度の発掘調査—』1982
袋井市役所『袋井市史 —通史編—』1983
袋井市役所『目でみる袋井市史』1986
磐田市教育委員会『遠江見性寺貝塚の研究』1974
磐田市教育委員会『西貝塚』1961
浜松市教育委員会『蜆塚貝塚 —その第一次発掘調査—』1957
浜松市教育委員会『蜆塚貝塚 —その第二次発掘調査—』1958
浜松市教育委員会『蜆塚貝塚 —その第三次発掘調査—』1960
浜松市教育委員会『蜆塚貝塚 —その第四次発掘調査—』1961

插

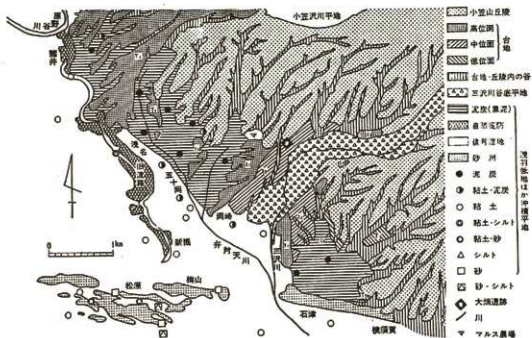
圖



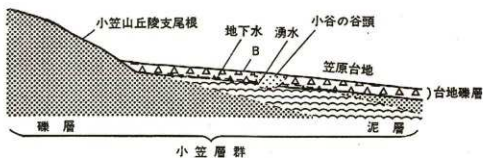
第1図 大畑遺跡位置図



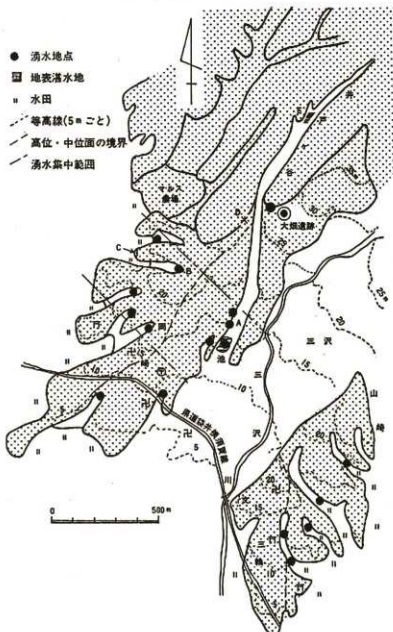
第2図 大畑遺跡の位置と範囲 (1/2,000)



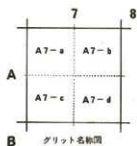
第3図 大畑遺跡周辺の地形・地質



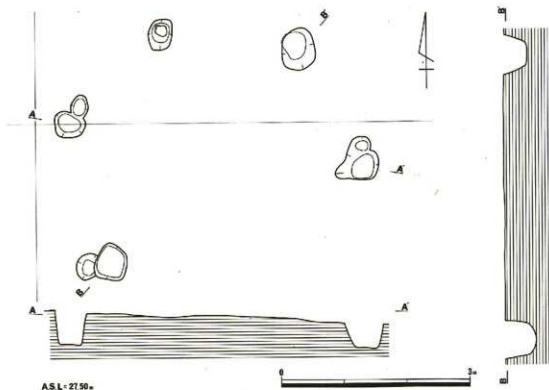
第4図 笠原台地の模式断面図



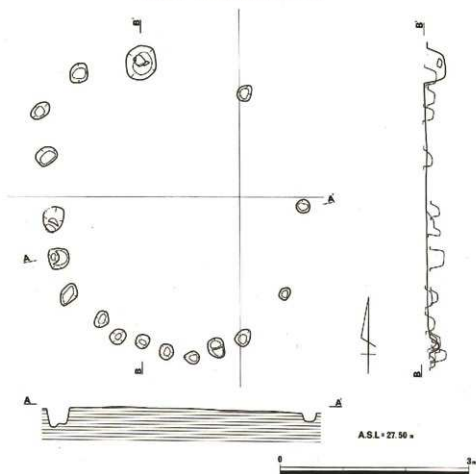
第5図 大畑遺跡周辺の湧水・湛水地



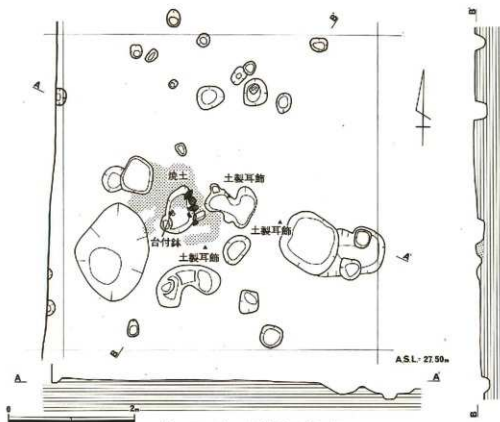
第7図 大畑遺跡昭和62年度発掘調査全体図



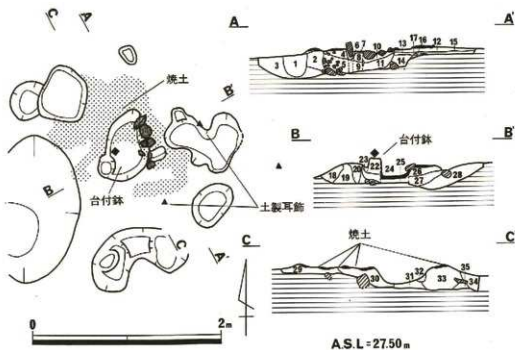
第8图 第1号住居跡実測図



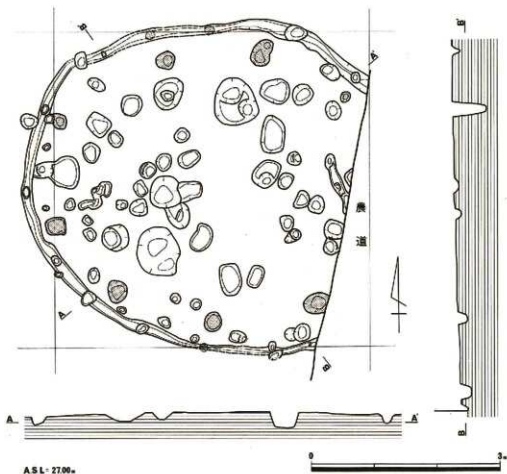
第9图 環状柱穴列実測図



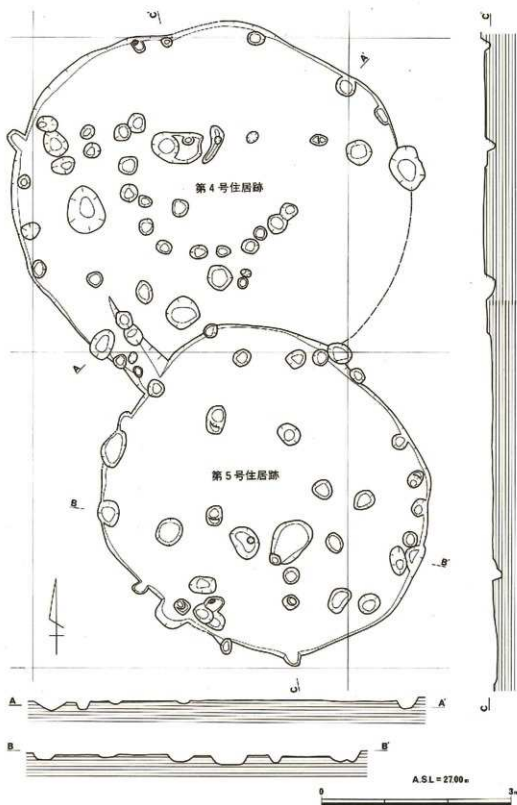
第10図 第2号住居跡実測図



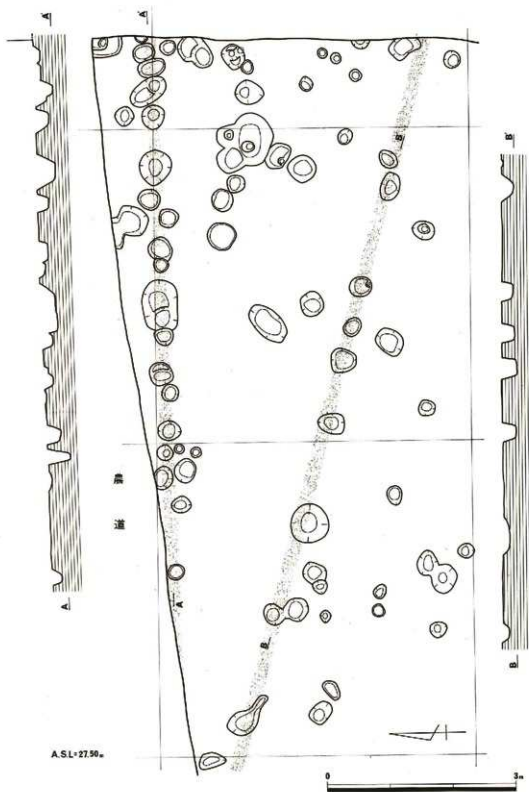
第11図 焼土遺構実測図



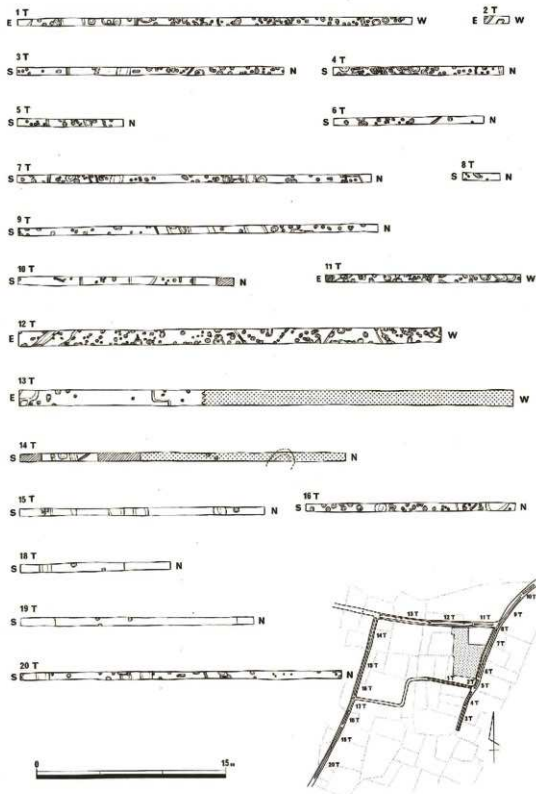
第12図 第3号住居跡実測図



第13図 第4、第5号住居跡実測図



第14图 第1、第2柱穴列实测图



第15図 道路部分トレンチ実測図

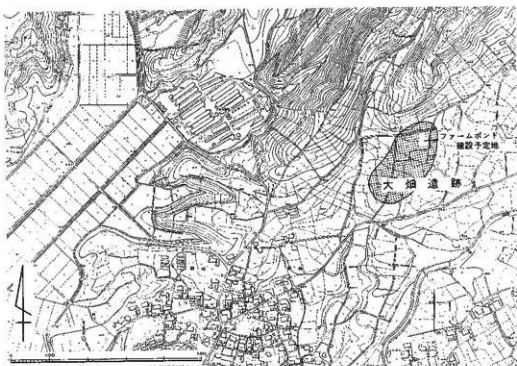
写 真 图 版

插

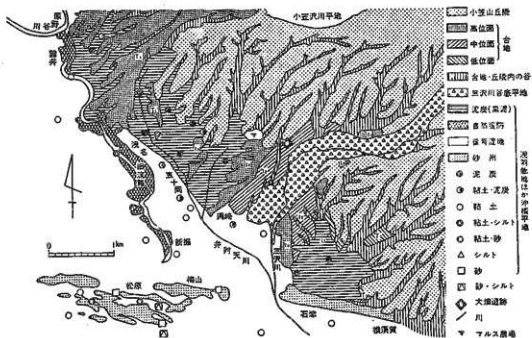
圖



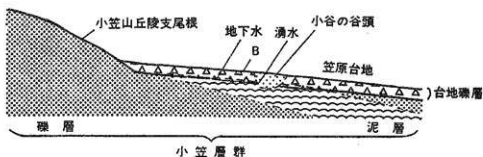
第1図 大畑遺跡位置図



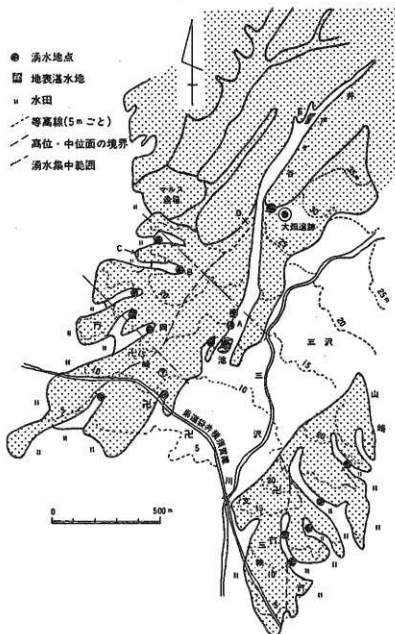
第2図 大畑遺跡の位置と範囲 (1/2,000)



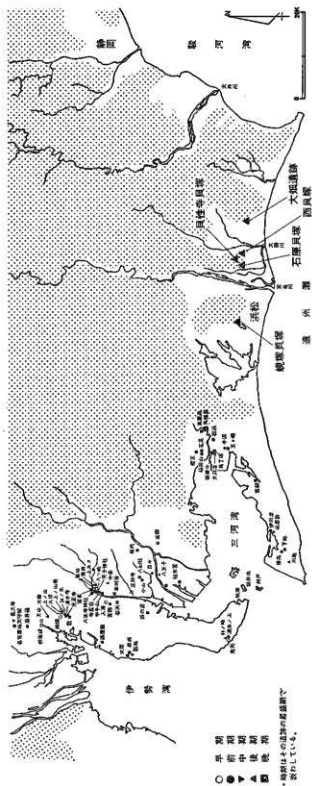
第3図 大畑遺跡周辺の地形・地質



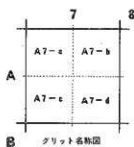
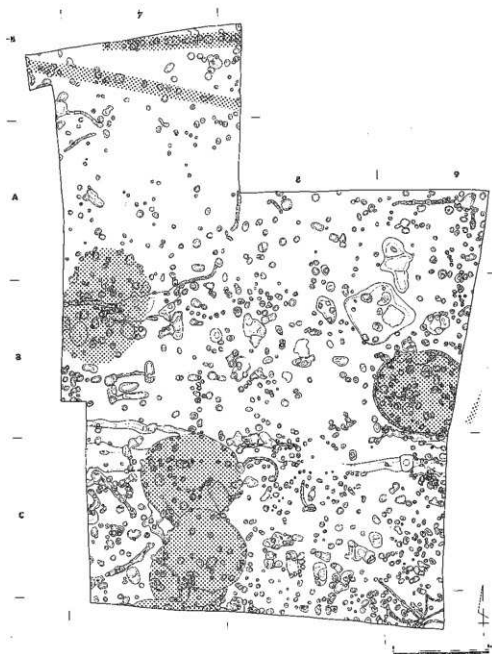
第4図 笠原台地の模式断面図



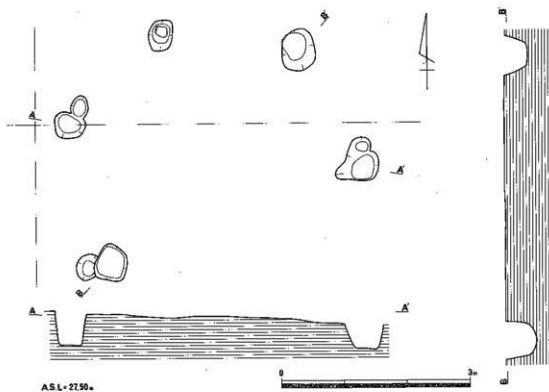
第5図 大畑遺跡周辺の湧水・湛水地



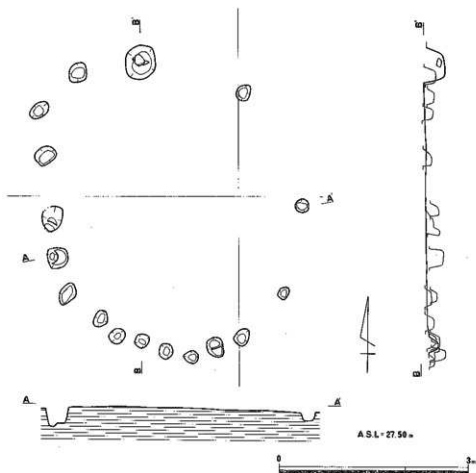
第6図 東海の縄文貝塚分布図



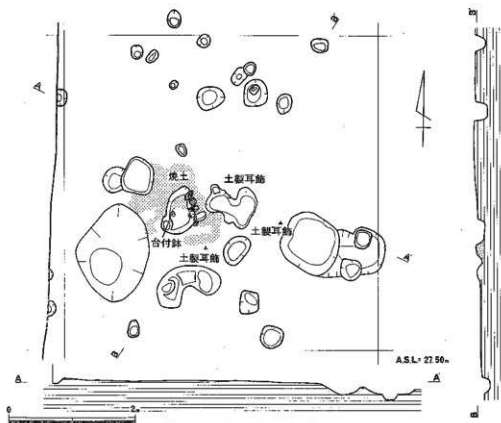
第7図 大畑遺跡昭和62年度発掘調査全体図



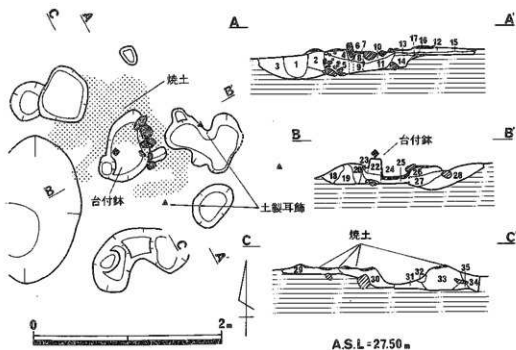
第8図 第1号住居跡実測図



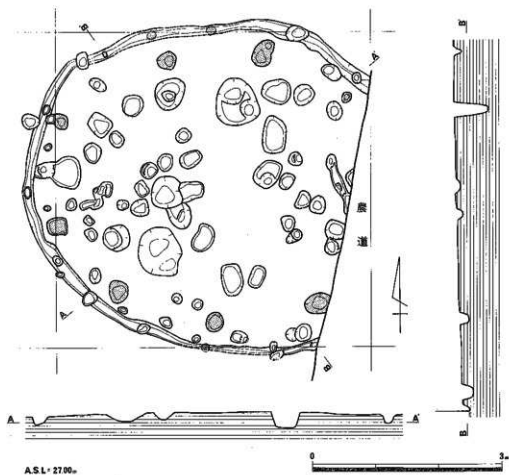
第9図 環状柱穴列実測図



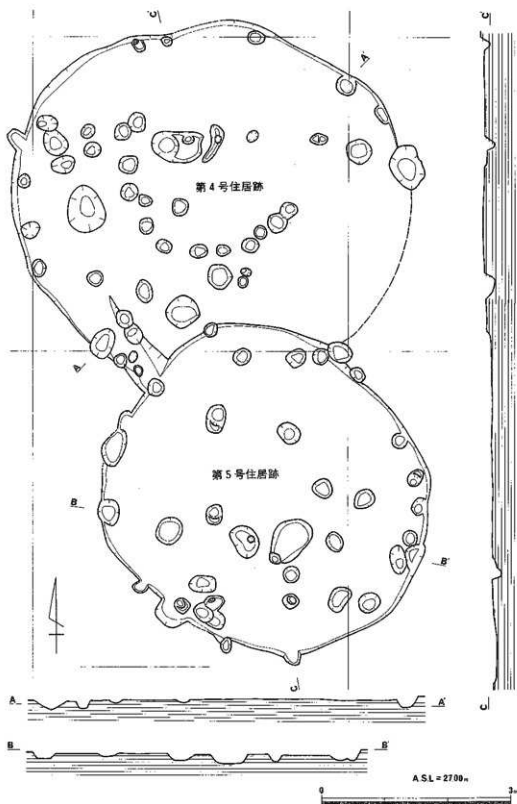
第10図 第2号住居跡実測図



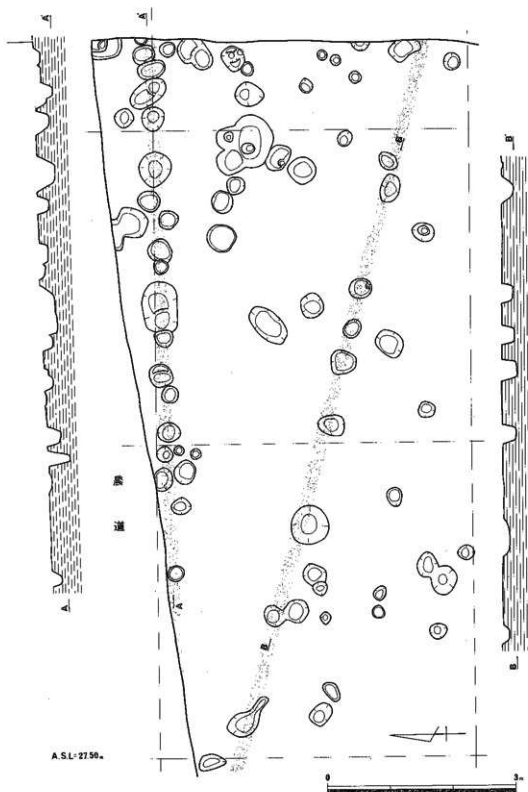
第11図 焼土遺構実測図



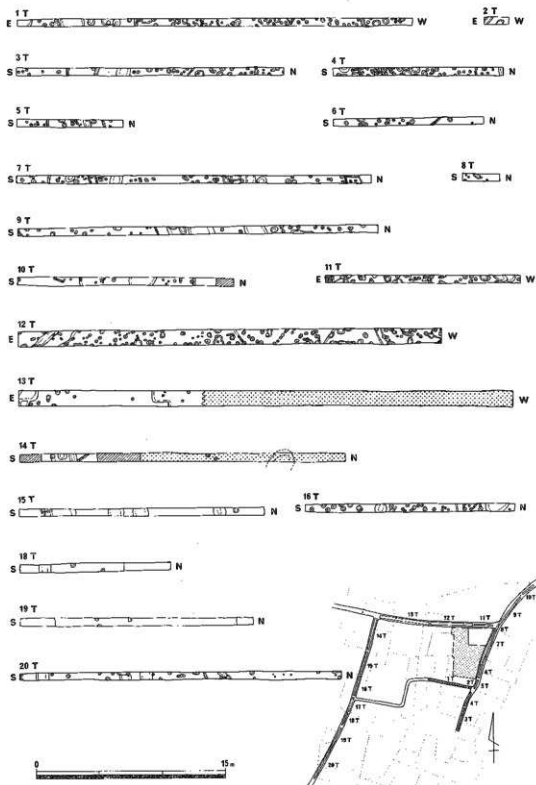
第12図 第3号住居跡実測図



第13図 第4、第5号住居跡実測図



第14图 第1、第2柱穴列实测图



第15図 道路部分トレンチ実測図

版 圖 真 寫



(A) 遠州灘上空より大畑遺跡を望む



(B) 浅羽町梅山上空より大畑遺跡を望む



(A) 大畑遺跡 (東より)



(B) 昭和62年度 調査区全景



(A) 発掘調査前の作業風景



(B) 住居跡発掘作業



(C) 柱穴群検出状況



← (A) 表土除去作業中



← (B) 乾燥防止のためシートで覆う



← (C) 遺構精査中



← (A) 調査区南西発掘風景



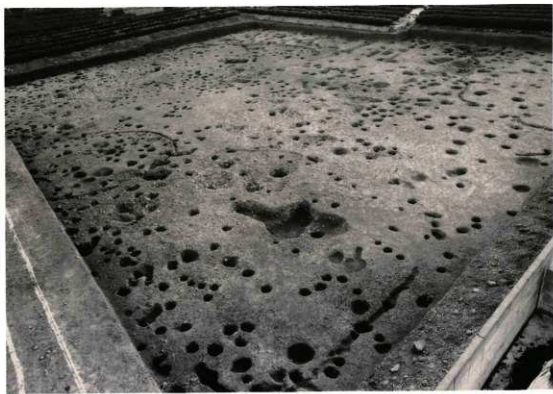
← (B) 炉跡付近発掘風景



← (C) 写真撮影用散水風景



(A) 遺跡完掘状況 (北より)



(B) 遺跡完掘状況 (東より)



(A) 第3号住居跡完掘状況（南より）



(B) 第4・第5号住居跡完掘状況（東より）



(A) 第1・第2号住居跡完掘状況（東より）



(B) 焼土遺構（炉跡）完掘状況（北西より）



(A) 土壇完掘状況 (西より)



(B) 第1・第2柱穴列完掘状況 (西より)



集落跡北側を巡る柱穴列（東より）



(A) 導水管埋設部分発掘前 (第10トレンチ)



(B) 導水管埋設部分発掘中 (第9・10トレンチ)



← (A) 農道部分表土掘削状況
(第15トレンチ)



← (B) 農道部分遺構精査中
(第11トレンチ)



← (C) 農道部分発掘状況
(第1・2トレンチ)



(A) 第3トレンチ完掘状況



(B) 集落跡北西の山裾に残る池跡
(第12トレンチ)



(A) 第3号住居跡発掘作業風景



(B) 土製耳飾出土状況



(C) 注口土器出土状況



(D) 市原壽文静岡大学教授の現地指導

62 県営かんばい天竜川下流地区
調査委託その1報告書

袋井市大畑遺跡

1988年3月19日

編集 静岡県袋井市教育委員会◎
袋井市団体3070-1
TEL 0538(43)2111

印刷 株式会社 開明堂
浜松市中沢町1番1号